



第3章

踏まえるべき課題

3-1. 市民意向の把握

1) アンケート調査の実施概要

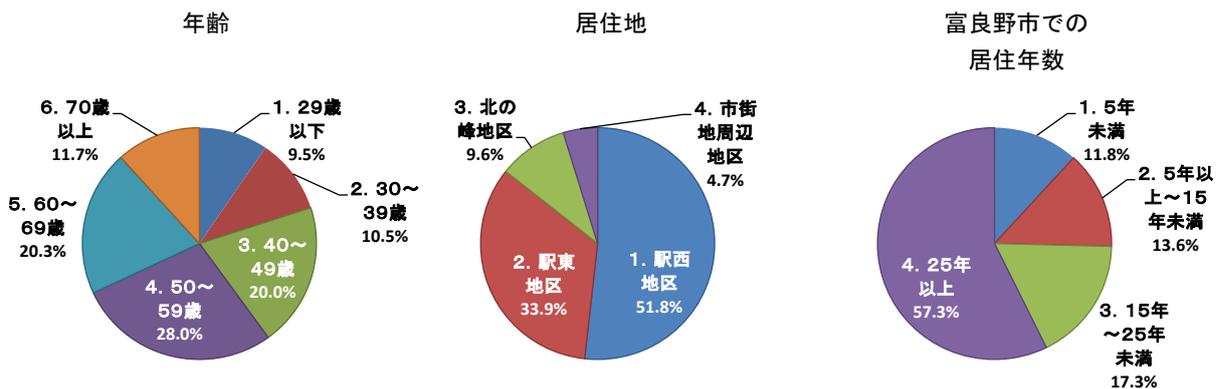
都市計画マスタープランの改訂にあたり、住民の意見の把握と計画への反映を目的としてアンケート調査を実施しました。

調査においては、年齢や居住地のバランスを考慮しつつ、都市計画区域内に居住する18歳以上の市民1,012人を対象に、郵送により配布・回収を行いました。

調査時期：令和元（2019）年6月11日（発送）
回収率：32.2%（回収数326件）

回答者の属性は以下のとおりとなっており、「年齢」では50代が最も多く約3割、「居住地」では駅西地区が約5割、次いで駅東地区、北の峰地区であり、地区の居住人口に準じた回答数が得られています。

また、「居住年数」では25年以上が最も多く約6割で、5年未満は約1割ではありますが一定数みられます。



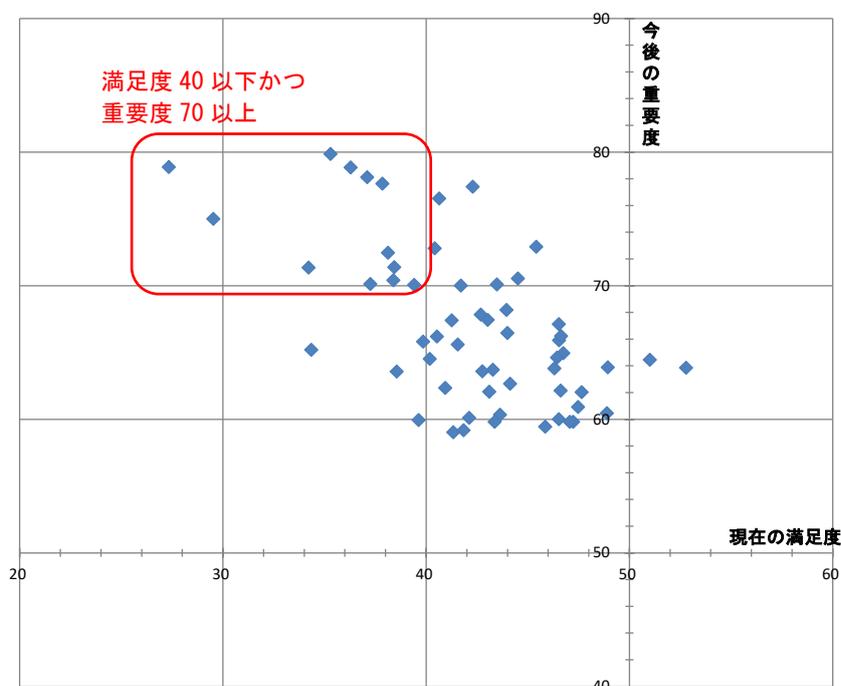
図表 アンケート回答者の属性

2) 解析結果の概要

アンケート調査では、「土地利用及び市街地整備」、「交通体系の整備」、「自然環境及び公園緑地の整備」、「都市防災」、「その他の都市施設の整備」、「都市景観の形成」の設問について評価項目を示し、「現在の満足度」と「今後の重要度」を質問しています。

具体的には次頁以降の58項目を5段階評価で回答してもらい、評価ごとの回答数に100点、75点、50点、25点、0点の重みを付け、加重平均により「現在の満足度」と「今後の重要度」を算出しました。

各項目の結果を横断的に比較した中で、「現在の満足度」が40以下かつ「今後の重要度」が70以上の項目を「不満かつ重要」として抽出すると12項目が該当しており、これらは本マスタープランの改訂にあたって、優先的に考慮すべき事項と考えられます。



図表 各評価項目の満足度と重要度の分布状況

Q 1. 土地利用及び市街地整備に関すること	満足度	重要度
1. 主要な都市機能の集約化	46.55	65.90
2. まちなか居住による賑わいづくり	43.97	68.17
3. 国道沿道への利便施設の立地誘導	44.15	62.66
4. 中心市街地の再整備	46.54	67.12
5. 郊外部の無秩序な開発の抑制	46.66	66.21
6. リゾート関連施設の立地誘導	43.12	62.06
7. 空き家、空き地の利活用	29.55	75.00
8. 工業団地の拡充等による企業誘致	34.37	65.19
9. 観光施設と市街地整備の連携強化	44.52	70.53
10. 定住促進のための住宅地供給	37.26	70.11

- ◆ 10項目中「空き家、空き地の利活用」と「定住促進のための住宅地供給」の2項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。
- ◆ 「空き家、空き地」が市街地内に多く存在し、長年放置されている空き家への解体等の対応や、使える空き家については中古住宅として活用すべきとの意見がみられます。
- ◆ 富良野市は賃貸物件の家賃が高く、収入に応じた手ごろな物件が不足しており、定住や移住のためにも適切な住宅環境を望む意見がみられます。
- ◆ このほか、満足度はさほど低くありませんが、「観光施設と市街地整備の連携強化」の重要度が70を超えており、特に富良野駅周辺の活性化を求める意見や、観光だけでなく住民の暮らしも考えるべきという意見がみられます。

Q 2. 交通体系の整備に関すること	満足度	重要度
1. 都市間を結ぶ広域的な道路の整備	46.76	64.94
2. 身近な生活道路の維持補修	38.40	70.40
3. 市街地内の幹線道路の充実	47.25	59.81
4. 観光客にもわかりやすい案内表示	41.27	67.41
5. 歩道のバリアフリー化	38.44	71.38
6. 経済性を重視した道路の老朽化対策	42.70	67.83
7. 自動車がなくとも暮らしやすい公共交通の充実	27.35	78.88
8. 駐車場の適正配置	39.86	65.81
9. 冬期の除雪や凍結防止の対応	36.29	78.84
10. まち歩きや自転車観光のための施設整備	38.56	63.57

- ◆ 10項目中「身近な生活道路の維持補修」、「歩道のバリアフリー化」、「自動車がなくとも暮らしやすい公共交通の充実」、「冬期の除雪や凍結防止の対応」の4項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。
- ◆ 特に「公共交通の充実」は、全58項目中で満足度が最低となっており、バスの便数が少ないことへの不満や、今後の高齢化や免許返納後の足となる公共交通機関が重要との意見がみられます。
- ◆ 「除雪等の対応」は、除雪後でもすれ違いが困難であることや、交差点の見通しが利かないことへの不満、住民の雪出しへの指導が必要との意見がみられます。
- ◆ このほか、「市街地内の幹線道路の充実」の重要度が低い一方で、「生活道路の維持補修」の重要度が高いことから、幹線系の充実よりも生活道路の改善を求める傾向がうかがえます。

図表 各評価項目の満足度と重要度 (1/3)

Q 3. 自然環境及び公園緑地の整備に関すること	満足度	重要度
1. 市街地周辺の自然環境や田園環境の保全	52.80	63.84
2. 生態系を踏まえた多自然型河川への改修	47.66	62.03
3. 水とふれ合える河川や公園の整備	40.19	64.51
4. 経済性を重視した公園施設の老朽化対策	41.56	65.59
5. 公園や公共施設敷地への緑化推進	47.48	60.91
6. 民間活力による公園の利活用の促進	41.35	59.03
7. 地域のニーズを反映した公園の再整備	40.95	62.34
8. 街路樹の適正管理による市街地の緑化	46.54	60.00
9. 市民による公園の維持や花のまちづくり	48.91	60.46
10. 自然環境と調和した観光開発	46.32	63.80

◆ 10項目中、満足度40以下かつ重要度70以上の項目は該当なく、他の設問に比べ高評価を得ていると考えられます。

◆ その中でも「市街地周辺の自然環境や田園環境の保全」や「市民による公園の維持や花のまちづくり」は満足度が高く、これまでの取組の成果が現れていると言えます。

◆ 一方で、「水とふれ合える河川や公園の整備」や「経済性を重視した公園施設の老朽化対策」、「地域のニーズを反映した公園の再整備」は、比較的満足度が低く、今後の検討が求められています。

◆ 「街路樹の適正管理による市街地の緑化」については、除雪や見通しの観点で街路樹を邪魔とする意見や、管理をしっかりすることでまちの魅力向上を望む意見もあり、感じ方に差がみられます。

Q 4. 都市防災に関すること	満足度	重要度
1. 災害危険箇所における開発の抑制	45.43	72.90
2. 大雨に備えた河川の減災対策	42.31	77.40
3. 公共建築物やライフラインの耐震化	40.65	76.52
4. 住宅や民間建築物の安全性向上	43.49	70.08
5. 防災機能を強化した公園施設整備	39.42	70.05
6. 緑化による密集市街地の延焼防止	43.29	63.69
7. 主要施設の停電時対策	35.30	79.86
8. 減災につながる地域コミュニティの形成	38.14	72.46
9. 防災情報の周知と共有化	37.86	77.63

◆ 9項目中「防災機能を強化した公園施設整備」、「主要施設の停電時対策」、「減災につながる地域コミュニティの形成」、「防災情報の周知と共有化」の4項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。

◆ 特に「施設の停電時対策」は全58項目中で重要度が最高となっており、「防災情報の周知」とともに平成30年胆振東部地震による北海道全域の停電を踏まえた回答と考えられます。

◆ このほか、満足度はさほど低くありませんが、「災害危険箇所における開発の抑制」、「大雨に備えた河川の減災対策」、「公共建築物やライフラインの耐震化」、「住宅や民間建築物の安全性向上」の重要度が70を超えています。

◆ 9項目のうち8項目の重要度が70を超える状況から、都市防災に関する市民の関心の高さがうかがえます。

図表 各評価項目の満足度と重要度 (2/3)

Q 5. その他の都市施設の整備に関すること	満足度	重要度
1. 主要建築物のバリアフリー化	40.44	72.78
2. 高齢者のための施設整備と充実	41.72	70.00
3. 子育てのための施設整備と充実	37.11	78.11
4. 公営住宅の計画的な建替えや改修	47.08	59.81
5. 水洗化の普及と下水道施設の整備	51.02	64.44
6. 建替え等に合わせた公共建築物の複合化	43.65	60.34
7. 長期的な公共建築物の適正配置	42.78	63.58
8. クリーンエネルギーの活用促進	43.04	67.44
9. 経済性を重視した公共建築物の老朽化対策	40.54	66.19

◆ 9項目中「子育てのための施設整備と充実」の1項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。

◆ 就学前の幼児が曜日に関係なく利用できる「子育て施設の充実」や雨の日にも子どもが遊べる施設を求める意見がみられます。

◆ このほか、満足度はさほど低くありませんが、「主要建築物のバリアフリー化」や「高齢者のための施設整備と充実」の重要度が70を超えており、これからの時代を見据えた建物のバリアフリー化や、高齢者が多くなることを踏まえて独居老人が生活しやすい住まいや入居施設を求める意見がみられます。

Q 6. 都市景観の形成に関すること	満足度	重要度
1. 中心市街地の景観の向上	46.45	64.61
2. 観光施設周辺の景観の向上	48.95	63.88
3. 国道沿道の景観の向上	46.62	62.13
4. リゾート開発に関わる規制と適正誘導	44.01	66.45
5. 屋外広告物への規制や指導	45.87	59.45
6. 高台など眺望ポイントの整備充実	43.39	59.80
7. 案内看板などのデザイン化	42.13	60.10
8. 工場や資材置場などの景観への配慮	41.85	59.17
9. 空き家、廃屋などへの指導や除却対応	34.22	71.35
10. 幹線道路沿道の無電柱化	39.64	59.93

◆ 10項目中「空き家、廃屋などへの指導や除却対応」の1項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。

◆ Q5の結果と同様に「空き家、廃屋」の関係を問題ととらえており、今後増加していくことを踏まえて、特にまちなかの空き家や空き店舗、主要道路沿いの古い建物への対応を求める意見がみられます。

◆ このほか、比較的重要度が高い項目は少ない状況ですが、「リゾート開発に関わる規制と適正誘導」が若干高めの傾向にあり、富良野市を印象づけるための景観のあり方や、海外資本による急速な開発を懸念する意見がみられます。

図表 各評価項目の満足度と重要度 (3/3)

3-2. まちづくりの方向性

1) 近年における都市計画の動向

高度経済成長を背景とした都市部への急速な人口集中と市街地の無秩序な外延化に対応するため昭和43(1968)年に施行された現行都市計画法は、ここ10年ほどで大きな転換期を迎えています。

これまでの人口増加と連動した「成長型都市」から、人口減少時代の「成熟型都市」へ移行するにあたり、都市計画では「コンパクトシティ」が注視されるようになり、また頻発する自然災害への対応も考慮すべき状況となってきています。

ここでは、都市計画に関わる各種法制度の検討審議を担う中核的な存在である、「社会資本審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会」において開催された各委員会の概要をとりあげ、近年の都市計画の動向として整理します。

安全・安心まちづくり小委員会	平成20(2008)年9月25日設置
小委員会報告書「安全で安心して暮らせるまちづくりの推進方策」	平成23(2011)年2月17日公表
<p><要旨></p> <p>災害が発生しやすい国土であることを踏まえ、災害リスク情報と都市に関する情報を重ね合わせた「防災まちづくり情報マップ(仮称)」を作成し、人口減少社会に対応した都市構造を検討する際に、リスクの高いところを避けて都市機能を集約することや、集積度の高い市街地の安全性を向上させるなど、市街地整備と各種の施設整備において、地域の特性に応じた施策を進める必要がある。</p> <p>▶ これを受け現在、各種災害リスク情報の公表が各機関から積極的に進みつつあり、今後の防災まちづくりへの活用が期待されています。</p>	

都市計画制度小委員会	平成21(2009)年6月設置
中間とりまとめ「都市計画に関する諸制度の今後の展開について」	平成24(2012)年9月3日公表
<p><要旨></p> <p>人口減少・超高齢化の進展、財政的制約・経済の低迷、地球環境問題とエネルギー制約への対応が必要であり、このため、都市計画の制度面、運用面において、「集約型都市構造化」と「都市と緑・農の共生」の双方がともに実現された都市像を目指すとともに、この実現のため、都市計画の前提となる「民間活動の重視」が重要である。</p> <p>▶ これを受け現在、「集約型都市構造化」については立地適正化計画制度の創設、「都市と緑・農の共生」については都市緑地法の改正が行われ、「民間活動の重視」については、公共施設や公的不動産への民間資金やノウハウの導入に関わる支援事業が整備されています。</p>	

新たな時代の都市マネジメント小委員会	平成 26 (2014) 年 6 月 25 日設置
中間とりまとめ「新たな時代の都市マネジメントはいかにあるべきか」	平成 27 (2015) 年 7 月 27 日公表
<p><要旨></p> <p>都市計画は、マスタープランや施設・市街地整備事業の計画等の決定によって整備が進められてきたが、一方、民間施設については、施設量や配置を制御するには及んでいなかったことから、「一連の時間軸やトータルでの都市空間の形成を意識したマネジメントの推進」が必要として、都市機能・居住機能の適正配置による都市の将来像を明示したうえで、民間を含めた都市の施設・インフラをトータルで最適に整備、管理運営し、都市空間の最適利用を図ること、また計画・整備から管理運営に至る一連の時間軸を意識し、エリアマネジメント団体等の「地域を運営する主体との協働」が重要である。</p> <p>▶ これを受け現在、都市内の農地に関わる都市農業振興基本計画の制度化や都市マネジメントに対応した都市公園のあり方が審議されています。</p>	

都市計画基本問題小委員会	平成 29 (2017) 年 2 月 15 日設置
中間とりまとめ「都市のスポンジ化への対応」	平成 29 (2017) 年 8 月 10 日公表
<p><要旨></p> <p>コンパクトシティ政策を推進していく中、都市内に空き地、空き家等の低未利用地が相当程度に発生し、重大な支障となっており、この「都市のスポンジ化」への対応が必要として、土地情報のマッチングや所有と利用の分離を通じた空き地の利活用、家庭菜園等の暫定利用の評価、地域住民や権利者が共同で計画・整備・運営を一体で行う取組を支援していくことが重要である。</p> <p>▶ これを受け現在、「柔軟な区画整理手法」や「低未利用土地権利設定等促進計画」制度、「立地誘導促進施設協定」制度など、支援策が整備されつつあります。</p>	
中間とりまとめ「安全で豊かな生活を支えるコンパクトなまちづくりの更なる推進を目指して」	平成 31 (2019) 年 7 月 30 日公表
<p><要旨></p> <p>コンパクトシティの多岐にわたる意義等をわかりやすく再整理し、住民・行政等で共有すること、まちなかの魅力の向上、市街地の拡散の抑制を車の両輪として各々の取組を強化すること、分野や市町村域を超えた連携を進め、コンパクトシティを効果的に推進し、新たに防災対策との連携も強化することが重要である。</p> <p>▶ これを受け現在、防災・減災等のための都市計画法・都市再生特別措置法等の改正とともに、ハザードエリアと居住誘導区域に関わる取扱いについて、更なる厳格化への方向性が検討されています。</p>	

2) 上位計画における方向性

本計画は、「富良野市総合計画」並びに「富良野都市計画区域マスタープラン」を上位計画としてこれらに即すものであることから、各計画が目指す将来の方向性をここで整理します。

①第6次富良野市総合計画

引用) 第6次富良野市総合計画 基本構想 令和3(2021)年度～令和12(2030)年度

これから10年間のまちづくりの方向性と基本的な考え方として『基本構想』を検討しました。基本構想では、「まちづくりスローガン」と「まちづくりコンセプト」を言葉と図で表し、さらに様々な立場を越えて共創していけることを願い「まちづくりメッセージ」を添えています。

<基本構想>

まちづくりスローガン

「美しい」のその先へ。WA!がまち、ふらの

まちづくりメッセージ

富良野には、「美しい」がいっぱいある。

美しい「自然」、美しい「こころ」、美しい「くらし」…。

100年後にも残したい富良野にしかない「美しさ」。

もっとみがける。もっともっと創造できる。
まだ見ぬ「美しさ」。

ひとりが輝く。
つながることでさらに輝く。
輪になることで輝きつづける。

輪がひろがっていくことで、
予想もできない『わっ!』が起こるかも。

そんなふらのに住みつづけたい。そんなフランドとつながってみたい。そんなFuranoを感じたい。

「美しい」のその先をみんなで見にいこう。



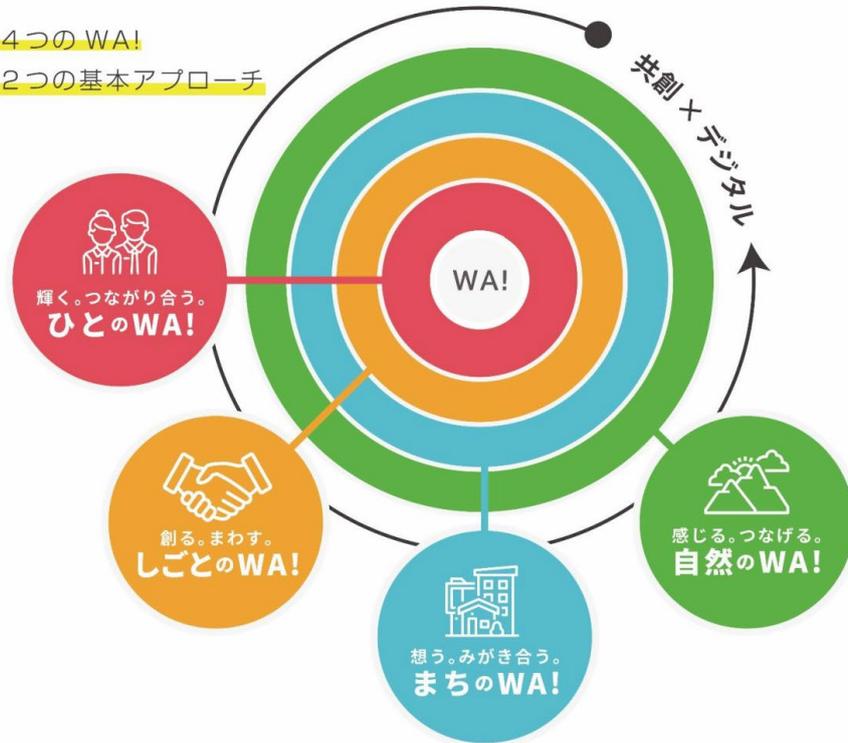
引用) 第6次富良野市総合計画 基本構想 令和3(2021)年度～令和12(2030)年度

<基本構想>

まちづくりコンセプト

4つのWA!

2つの基本アプローチ



WA!

つながる (輪)

驚き (わっ!)

循環する (環)

やさしい (和)

誇れる (我が)

4 つ の WA!	輝く。 <small>輝く。つながり合う。ひとのWA!</small>	ひとりひとり、違ってもいい。あらゆるひとが、輝きを増すように支援・応援し合う。	つながり合う。	境を越えてつながり合うことで新しい輝きが生まれる。
	創る。 <small>創る。まわす。しごとのWA!</small>	<u>新たな付加価値を創造する。</u> 新しいしごとを創り出す。	まわす。	地域を越えて「ひと・カネ・価値」の循環を創り出す。
	想う。 <small>想う。みがき合う。まちのWA!</small>	現在、過去、未来。それぞれの地域。 <u>富良野が持つ魅力を大切に想う。</u>	みがき合う。	大切にしてきたものをみがき合い、新たなスタイルを創造する。
	感じる。 <small>感じる。つなげる。自然のWA!</small>	恵まれた自然から受ける恩恵を感じる。小さな環境の変化を見逃さない。	つなげる。	<u>豊かな自然環境を未来へつなげる。</u> <u>新しい価値へとつなげる。</u>
2 つ の 基 本 ア プ ロ ー チ	共創	複雑な課題に対しあらゆる枠を越えて「共創」することで新たな一歩目を創り出す。	デジタル	持続可能なまちづくりに向けて、「データ」や「テクノロジー」の活用を推進する。

②富良野都市計画区域マスタープラン

引用) 富良野都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
令和2年4月7日決定 目標年次 令和12(2030)年

都市づくりの基本理念 より

本区域は、道北連携地域上川地域の南部に位置しており、周囲を山林に囲まれた富良野盆地を流れる空知川及び富良野川の合流点から東側に市街地が形成されてきた。

基幹産業は、2つの河川に囲まれた肥沃な大地を生かした農業のほか、農業と連携した商業や農産品加工業等となっている。また、スキー場を中心とする冬季のレジャーをはじめ、豊かな自然環境や景観を生かした観光産業が脚光を浴びており、特に海外からの観光需要が高まってきており、観光レクリエーションの拠点が形成されている。

人口はやや減少傾向にあるほか少子高齢化が進んでおり、これらに伴い中心市街地の活力が低下していることから、活性化が求められている。また、市街地周辺においては、住宅地や観光関連施設の開発の圧力が高まっており、無秩序な土地利用を防止するため、市街地全体を見渡す総合的な観点から、整備、開発及び保全が必要となっている。

具体的には、基幹産業である農業の基盤となる農地や市街地の周囲の豊かな森林資源と市街地を明確に区分し、自然環境と調和した良好な市街地の形成を図るため、長期的な視野での市街地の土地利用の規制と公共施設の適正配置を図ることが課題となっている。

本区域のまちづくりのあるべき姿及び方向性として「まちごと公園に向けて」をテーマとし、市街地全体を周辺の恵まれた自然環境と調和したひとつの公園としてイメージしている。

また、「まちごと公園」を実現するため目指すべき都市像として、次の5つを掲げている。

- ・自然と調和したまちづくり
- ・人と人の共生したまちづくり
- ・活気あるまちづくり
- ・文化的なまちづくり
- ・みんなで力を合わせるまちづくり

中心市街地に関しては、富良野市中心市街地活性化基本計画に基づき、まちなか回遊、まちなか居住、産業振興等による活性化及び機能回復を図る。

本区域の都市づくりにおいては、このことを踏まえるとともに、今後は人口の減少や少子高齢化が進行しながらも、交流人口の増加が予想されることから、市街地の無秩序な拡大を抑制し、都市の既存ストックを適切に更新することにより、様々な都市機能がコンパクトに集積した都市構造、地球環境時代に対応した低炭素型都市構造への転換を目指す。さらに、都市の防災性の向上を図り、誰もが安心して心豊かに住み続けられるまちづくりに向けた都市づくりを進める。

3-3. 課題の整理

1) キーワードの類型化

第2章及び第3章において整理した、「都市の特性」、「都市計画の状況」、「都市の構造分析」、「市民意向の把握」、「まちづくりの方向性」から要点を課題整理に向けたキーワードとして抽出し、本計画において後述する基本方針の項目ごとに類型化して整理します。

項目	キーワードの抽出	ま ち づ く り 全 般	土 地 利 用	市 街 地 整 備	交 通 体 系	及 自 然 公 園 環 境	都 市 防 災	そ の 他 施 設	都 市 景 観
都市の特性	・富良野盆地の中心都市	○							
	・山並みに囲まれた豊かな自然環境	○				○			
	・農業が基幹産業で野菜の一大産地	○							
	・ヘソとスキーとワインのまち	○							
	・人口減少、少子高齢化の進展	○							
	・駅前から段階的に発展してきた歴史	○							
都市計画の状況	・農業地域と森林地域に囲まれた市街地		○			○			
	・富良野芦別道立自然公園の区域が一部重複		○			○			
	・用途地域等による市街地内の規制誘導		○						
	・特定用途制限地域による外縁部の規制誘導		○						
	・景観地区によるリゾート周辺地域の景観誘導								○
	・未着手の都市計画道路の存在					○			
	・多数の公園・緑地が配置され供用済み						○		
	・活性化のための市街地開発事業の導入				○				
都市の構造分析	・河川と丘陵地に囲まれたコンパクトなまちなみ	○				○			
	・駅前、国道沿道、北の峰方面を主とした施設分布			○					
	・老朽化した公営住宅の存在			○					
	・富良野道路の開通、富良野北道路の整備				○				
	・根室本線（富良野～新得）の今後の動向				○				
	・高齢者や観光客による公共交通の需要増				○				
	・市街地の低密度化、まちなみの老朽化			○					
	・用途地域内の大規模未利用地の存在		○						
	・河川の合流点、傾斜地を有する都市構造						○		
	・用途地域内に土砂災害特別警戒区域が存在						○		
	・市街地の一部で3～5mの浸水が想定						○		
市民意向の把握	・空き家、空き地の利活用			○					
	・定住促進のための住宅地供給			○					
	・観光施設と市街地整備の連携強化			○					
	・身近な生活道路の維持補修				○				
	・歩道のバリアフリー化				○				
	・自動車がなくとも暮らしやすい公共交通の充実	○			○				
	・冬期の除雪や凍結防止の対応				○				

図表 キーワードの類型化 (1/2)

項目	キーワードの抽出	まちづくり全般	土地利用	市街地整備	交通体系	及び自然公園環境	都市防災	その他施設	都市景観
市民意向の把握	・水とふれ合える河川や公園の整備					○			
	・経済性を重視した公園施設の老朽化対策					○			
	・地域のニーズを反映した公園の再整備					○			
	・防災機能を強化した公園施設整備					○	○		
	・主要施設の停電時対策						○		
	・減災につながる地域コミュニティの形成	○					○		
	・防災情報の周知と共有化	○					○		
	・災害危険箇所における開発の抑制						○		
	・大雨に備えた河川の減災対策						○		
	・公共建築物やライフラインの耐震化						○		
	・住宅や民間建築物の安全性向上						○		
	・子育てのための施設整備と充実							○	
	・主要施設のバリアフリー化							○	
	・高齢者のための施設整備と充実							○	
	・水洗化の普及と下水道施設の整備							○	
	・空き家、廃屋などへの指導や除却対応								○
	・リゾート開発に関わる規制と適正誘導			○					○
まちづくりの方向性	・災害リスク情報を踏まえた市街地整備			○			○		
	・集約型都市構造化	○							
	・都市と緑・農の共生					○			
	・民間活動の重視					○			○
	・民間を含めた都市空間の最適利用			○					
	・地域を運営する主体との協働	○		○					
	・都市のスポンジ化への対応			○					
	・コンパクトなまちづくりの更なる推進	○							
	・市域を超えた連携	○							
	・防災対策との連携	○							
	・富良野にしかない「美しさ」	○							
	・ふらのに住みつけたい	○							
	・枠を超えてつながり合う	○							
	・新たな付加価値を創造する	○							
	・富良野が持つ魅力を大切に想う	○							
	・豊かな自然環境を未来へつなげる	○							
	・農地や森林資源と市街地を明確に区分			○					
	・自然環境と調和した市街地			○			○		
	・市街地の土地利用規制と公共施設の適正配置			○	○			○	
	・まちごと公園に向けて	○							
	・自然と調和したまちづくり	○							
	・人と人の共生したまちづくり	○							
	・活気あるまちづくり	○							
	・文化的なまちづくり	○							
	・みんなで力を合わせるまちづくり	○							
	・中心市街地の活性化、機能回復	○			○				
	・市街地の無秩序な拡大抑制			○					
・コンパクトに集積した都市構造	○								
・低炭素型都市構造	○								
・都市の防災性の向上	○								
・安心して豊かに住み続けられるまちづくり	○								

図表 キーワードの類型化 (2/2)

2) 都市計画上の課題

キーワードの類型化をもとに、基本方針の項目ごとに課題を設定します。

① 土地利用の主要課題

<関連キーワード>

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業地域と森林地域に囲まれた市街地 ・富良野芦別道立自然公園の区域が一部重複 ・用途地域等による市街地内の規制誘導 ・特定用途制限地域による外縁部の規制誘導 ・用途地域内の大規模未利用地の存在 | <ul style="list-style-type: none"> ・リゾート開発に関わる規制と適正誘導 ・農地や森林資源と市街地を明確に区分 ・自然環境と調和した市街地 ・市街地の土地利用規制と公共施設の適正配置 ・市街地の無秩序な拡大抑制 |
|---|---|

<土地利用の主要課題>

富良野市は、周辺を森林等の自然や田園に囲まれた美しいまちです。このような環境、景観は本市の魅力・強みであり、これを将来に引き継いでいくために、農地や森林と市街地を明確に区分し、用途地域内の居住に関する適正誘導とともに、周辺自然環境と調和のとれた土地利用を進める必要があります。

また、富良野市では、これまでも各種構想に基づき、計画的なリゾート開発を推進してきましたが、近年ではインバウンドに伴う開発需要が高まりを見せていることから、今後の動向を見据えたうえで、外縁部での無秩序な開発を抑制するための土地利用規制等の対応が引き続き必要です。

② 市街地整備の主要課題

<関連キーワード>

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・活性化のための市街地開発事業の導入 ・駅前、国道沿道、北の峰方面を主とした施設分布 ・老朽化した公営住宅の存在 ・市街地の低密度化、まちなみの老朽化 ・空き家、空き地の利活用 ・定住促進のための住宅地供給 ・観光施設と市街地整備の連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害リスク情報を踏まえた市街地整備 ・民間を含めた都市空間の最適利用 ・地域を運営する主体との協働 ・都市のスポンジ化への対応 ・市街地の土地利用規制と公共施設の適正配置 ・中心市街地の活性化、機能回復 |
|--|---|

<市街地整備の主要課題>

本市では人口減少が進み、市街地の低密度化により空き家、空き地が増加している状況にあります。今後は、定住促進のための取組を進めるとともに、既存施設や住宅などストックの利活用や集約化により、コンパクトなまちづくりを進める必要があります。

また、今後の少子高齢化の進展を見据え、市街地の集約と併せた都市機能の適正配置により、歩いて暮らせるまちを実現するとともに、中心市街地においては、集客性の高い施設を効果的に結び付け、賑わいのある市街地を形成していくことが求められます。

③交通体系の主要課題

＜関連キーワード＞

- ・未着手の都市計画道路の存在
- ・富良野道路の開通、富良野北道路の整備
- ・根室本線（富良野～新得）の今後の動向
- ・高齢者や観光客による公共交通の需要増
- ・身近な生活道路の維持補修
- ・歩道のバリアフリー化
- ・自動車がなくても暮らしやすい公共交通の充実
- ・冬期の除雪や凍結防止の対応

＜交通体系の主要課題＞

本市の都市計画道路は整備率が 69.9%となっており、今後は根室本線の動向や富良野北道路の進捗を踏まえた計画路線の整備を進めるとともに、将来的な必要性に応じた見直しを適切に行う必要があります。

また、少子高齢化の進展や観光客増加による回遊性の向上に対応した、歩道空間の充実やバリアフリー化、冬期の除雪対応など、安全かつ円滑な交通処理が必要です。

さらに、高齢者など交通弱者の増加を踏まえ、自家用車に頼らずとも安心して暮らすことのできる、機能的な公共交通の充実も求められます。

④自然環境及び公園の主要課題

＜関連キーワード＞

- ・山並みに囲まれた豊かな自然環境
- ・農業地域と森林地域に囲まれた市街地
- ・富良野芦別道立自然公園の区域が一部重複
- ・多数の公園・緑地が配置され供用済み
- ・河川と丘陵地に囲まれたコンパクトなまちなみ
- ・水とふれ合える河川や公園の整備
- ・経済性を重視した公園施設の老朽化対策
- ・地域のニーズを反映した公園の再整備
- ・防災機能を強化した公園施設整備
- ・都市と緑・農の共生
- ・民間活動の重視
- ・自然環境と調和した市街地

＜自然環境及び公園の主要課題＞

本市の市街地周辺に広がる森林や河川等の優れた自然環境や豊かな田園地域は、森林法や農地法、自然公園法の指定を基本として適切に保全するとともに、本市の地域資源として積極的に利活用していくことが必要です。

また、都市公園が 70 箇所及び、自然環境と調和した市街地の形成に貢献していることから、今後とも劣化状況に応じた適切な維持管理とともに、リニューアルが必要な場合は、地域の利用ニーズに配慮していくことが必要です。

さらに、みどり豊かなまちづくりを進めるため、市民参加による緑化活動や民間活力による公園の管理や利活用を進めることも必要です。

⑤都市防災の主要課題

<関連キーワード>

- ・河川の合流点、傾斜地を有する都市構造
- ・用途地域内に土砂災害特別警戒区域が存在
- ・市街地の一部で3～5mの浸水が想定
- ・防災機能を強化した公園施設整備
- ・主要施設の停電時対策
- ・減災につながる地域コミュニティの形成
- ・防災情報の周知と共有化
- ・災害危険個所における開発の抑制
- ・大雨に備えた河川の減災対策
- ・公共建築物やライフラインの耐震化
- ・住宅や民間建築物の安全性向上
- ・災害リスク情報を踏まえた市街地整備

<都市防災の主要課題>

近年、我が国においては大規模な地震や豪雨による河川氾濫等の未曾有の災害が頻発しています。本市においても、「宅地造成工事規制区域」や「土砂災害特別警戒区域」等の指定区域を適切に運用するとともに、危険個所に関する情報周知や市街地の抑制を検討するなど、将来的な減災への取組が必要となっています。

また、避難場所や避難ルートの確保、主要施設の耐震化や停電対策等、各種災害の発生を想定した対応が必要が必要です。

⑥その他施設の主要課題

<関連キーワード>

- ・子育てのための施設整備と充実
- ・主要施設のバリアフリー化
- ・高齢者のための施設整備と充実
- ・水洗化の普及と下水道施設の整備
- ・市街地の土地利用規制と公共施設の適正配置

<その他施設の主要課題>

上下水道については、管路や施設の老朽化が進行しており、計画的な更新が必要となっています。

また、少子高齢化の時代に安心して暮らせる社会の実現のため、ニーズに対応した高齢者施設、子育て支援施設等の公共施設を適切に配置するとともに、誰もが使いやすい施設とするための公共施設のバリアフリー化を進める必要があります。

⑦都市景観の主要課題

<関連キーワード>

- ・景観地区によるリゾート周辺地域の景観誘導
- ・空き家、廃屋などへの指導や除却対応
- ・リゾート開発に関わる規制と適正誘導
- ・民間活動の重視

<都市景観の主要課題>

富良野市の市街地景観の形成にあたっては、市街地周辺の美しい森林景観、田園景観との調和を図り、中心市街地や住宅街、リゾート地など、地域特性に応じた富良野らしい景観を形成するため、景観計画に基づいた規制、誘導を進める必要があります。

また、空き家や廃屋等への対策、公共空間の緑化等について、市民や民間企業との協働による景観づくりを進める必要があります。

3) まちづくり上の課題

キーワードの類型化において、まちづくり全般に関わる項目を抽出し、目指すべき都市計画の目標を設定する際に配慮すべき課題として整理します。

<キーワード>	<配慮すべき課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・山並みに囲まれた豊かな自然環境 ・農業が基幹産業で野菜の一大産地 ・富良野にしかない「美しさ」 ・豊かな自然環境を未来へつなげる ・まちごと公園に向けて ・自然と調和したまちづくり ・低炭素型都市構造 	<p>⇒ 富良野市の魅力である周辺の自然環境との調和が必要。</p>

<キーワード>	<配慮すべき課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・富良野盆地の中心都市 ・ヘソとスキーとワインのまち ・人口減少、少子高齢化の進展 ・自動車がなくとも暮らしやすい公共交通の充実 ・ふるのに住みつけたい ・新たな付加価値を創造する ・富良野が持つ魅力を大切に想う ・活気あるまちづくり ・文化的なまちづくり ・中心市街地の活性化、機能回復 	<p>⇒ 人口減少や少子高齢化の時代にあっても豊かで暮らせることが必要。</p>

<キーワード>	<配慮すべき課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・駅前から段階的に発展してきた歴史 ・河川と丘陵地に囲まれたコンパクトなまちなみ ・集約型都市構造化 ・コンパクトなまちづくりの更なる推進 ・コンパクトに集積した都市構造 	<p>⇒ 快適に暮らせるために都市の機能性を確保したコンパクトなまちなみが必要。</p>

<キーワード>	<配慮すべき課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・減災につながる地域コミュニティの形成 ・防災情報の周知と共有化 ・防災対策との連携 ・都市の防災性の向上 ・安心して豊かに住み続けられるまちづくり 	<p>⇒ 安心して暮らせるために防災への対応が必要。</p>

<キーワード>	<配慮すべき課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域を運営する主体との協働 ・市域を超えた連携 ・枠を超えてつながり合う ・人と人の共生したまちづくり ・みんなで力を合わせるまちづくり 	<p>⇒ 市民や事業者、広域的な連携によって各種の取組を進めていくことが必要。</p>